

#2

Atty. Dkt. No. 040405-0340

10-17-01

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant: Makoto ENDOU
Title: HOME MEDICAL EXAMINATION
SYSTEM AND HOME MEDICAL
EXAMINATION METHOD
THEREOF



Appl. No.: Unassigned
Filing Date: July 2, 2001
Examiner: Unassigned
Art Unit: Unassigned

CLAIM FOR CONVENTION PRIORITY

Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

Sir:

The benefit of the filing date of the following prior foreign application filed in the following foreign country is hereby requested, and the right of priority provided in 35 U.S.C. § 119 is hereby claimed.

In support of this claim, filed herewith is a certified copy of said original foreign application:

Japanese Patent Application
No. 2000-203007 filed 5 JULY 2000.

Respectfully submitted,

Date: July 2, 2001

FOLEY & LARDNER
Washington Harbour
3000 K Street, N.W., Suite 500
Washington, D.C. 20007-5109
Telephone: (202) 672-5407
Facsimile: (202) 672-5399

By

David A. Blumenthal

for

David A. Blumenthal
Attorney for Applicant
Registration No. 26,257

Reg # 41,398

【書類名】 特許願

【整理番号】 67000020

【提出日】 平成12年 7月 5日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 17/00

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都港区芝五丁目 7 番 1 号 日本電気株式会社内

 【氏名】 遠藤 誠

【特許出願人】

 【識別番号】 000004237

 【氏名又は名称】 日本電気株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100088812

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 ▲柳▼川 信

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 030982

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 在宅診療システム及びその在宅診療方法

【特許請求の範囲】

【請求項1】 病気診察依頼を行うためのユーザ端末と、前記病気診察依頼に応答して前記ユーザ端末を通して行われた病状診察及びそれに基づいた応急処置の指示と前記病状診察に基づいた薬の処方箋及び医療器材の使用指示とを含んで生成された診察カルテを前記ユーザ端末及び前記薬の調合施設に送信する医療センタ端末と、前記診察カルテに基づいて前記調合施設で調合された薬及び前記医療器材の搬送を指示しかつその指示結果を配送情報として前記ユーザ端末及び前記医療センタ端末に送出する薬局端末とを有することを特徴とする在宅診療システム。

【請求項2】 インタネットを含む通信ネットワークによって前記ユーザ端末と前記医療センタ端末と前記薬局端末とを接続するようにしたことを特徴とする請求項1記載の在宅診療システム。

【請求項3】 前記医療センタ端末からの前記診察カルテと前記薬局端末からの前記配送情報とを前記通信ネットワークを介して受信する健康保険組合端末を含むことを特徴とする請求項2記載の在宅診療システム。

【請求項4】 前記健康保険組合端末は、前記診察カルテと前記配送情報とに基づいて前記病気診察依頼の診察及び治療にかかった費用を計算するようにしたことを特徴とする請求項3記載の在宅診療システム。

【請求項5】 ユーザ端末を通して病気診察依頼を行うステップと、前記病気診察依頼に応答して前記ユーザ端末を通して行われた病状診察及びそれに基づいた応急処置の指示と前記病状診察に基づいた薬の処方箋及び医療器材の使用指示とを含んで生成された診察カルテを医療センタ端末から前記ユーザ端末及び前記薬の調合施設に送信するステップと、前記診察カルテに基づいて前記調合施設で調合された薬及び前記医療器材の搬送を指示しかつその指示結果を配送情報として薬局端末から前記ユーザ端末及び前記医療センタ端末に送出するステップとを有することを特徴とする在宅診療方法。

【請求項6】 インタネットを含む通信ネットワークによって前記ユーザ端末と前記医療センタ端末と前記薬局端末とを接続するようにしたことを特徴とする請求項5記載の在宅診療方法。

【請求項7】 健康保険組合端末において前記医療センタ端末からの前記診察カルテと前記薬局端末からの前記配送情報とを前記通信ネットワークを介して受信するステップを含むことを特徴とする請求項6記載の在宅診療方法。

【請求項8】 前記健康保険組合端末は、前記診察カルテと前記配送情報とに基づいて前記病気診察依頼の診察及び治療にかかった費用を計算するようにしたことを特徴とする請求項7記載の在宅診療方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は在宅診療システム及びその在宅診療方法に関し、特に在宅にて病気の診断及び治療を行う方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、病気の診断や治療は、ユーザ（病人）が医療センタ（病院）へ出向いて診察（診断）を受け、医師の処方箋を薬局へ持参して薬を受取り、その薬の服用や塗布等に病気の治療や療養を行っている。

【0003】

また、上記の病気の診断や治療の費用について、健康保険組合等は医療センタ（病院）の医療報酬を医療センタ側等からの一方的な医療請求を受け入れて支払っている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

上述した従来の病気の診断や治療を行う方法では、ユーザ（病人）が病気の症状を訴えているにもかかわらず、医療センタ（病院）へ出向いて医師の診察（診断）を受けなければならず、動けない場合には救急車等を手配する必要がある。

【0005】

また、ユーザ（病人）が病気によって体の抵抗力が低下している状態で、医療センタ（病院）へ出向かなければならず、ともすると、医療センタ内（病院）で別の病気等に感染するという危険が存在する。

【0006】

さらに、医療センタ（病院）及び薬局は病気の診断や治療を行う際に、健康保険組合等に対してその費用の請求等を行うために煩わしい費用請求手続きを行わねばならず、その費用請求手続きに時間を費やすこととなる。

【0007】

さらにまた、健康保険組合等は診察内容等が明確に把握できない状態で医療報酬の支払いを行うとともに、診察内容等が明確に把握できないことによって健康保険組合員の健康状態をタイムリに把握することができない。

【0008】

そこで、本発明の目的は上記の問題点を解消し、自宅に居ながらにして医師の適切な診察（診断）を受けることができ、医療センタ内（病院）で別の病気等に感染する危険から守ることができる在宅診療システム及びその在宅診療方法を提供することにある。

【0009】

また、本発明の他の目的は、医療センタ（病院）及び薬局が健康保険組合等に対する費用請求手続きの煩雑さを軽減することができ、健康保険組合等が診察内容等が明確に把握することができ、適正な医療報酬の支払いが行うことができるとともに、健康保険組合員の健康状態を把握することができる在宅診療システム及びその在宅診療方法を提供することにある。

【0010】

【課題を解決するための手段】

本発明による在宅診療システムは、病気診察依頼を行うためのユーザ端末と、前記病気診察依頼に応答して前記ユーザ端末を通して行われた病状診察及びそれに基づいた応急処置の指示と前記病状診察に基づいた薬の処方箋及び医療器材の使用指示とを含んで生成された診察カルテを前記ユーザ端末及び前記薬の調合施設に送信する医療センタ端末と、前記診察カルテに基づいて前記調合施設で調合

された薬及び前記医療器材の搬送を指示しかつその指示結果を配送情報として前記ユーザ端末及び前記医療センタ端末に送出する薬局端末とを備えている。

【0011】

本発明による他の在宅診療システムは、上記の構成のほかに、前記医療センタ端末からの前記診察カルテと前記薬局端末からの前記配送情報とを前記通信ネットワークを介して受信する健康保険組合端末を具備している。

【0012】

本発明による在宅診療方法は、ユーザ端末を通して病気診察依頼を行うステップと、前記病気診察依頼に応答して前記ユーザ端末を通して行われた病状診察及びそれに基づいた応急処置の指示と前記病状診察に基づいた薬の処方箋及び医療器材の使用指示とを含んで生成された診察カルテを医療センタ端末から前記ユーザ端末及び前記薬の調合施設に送信するステップと、前記診察カルテに基づいて前記調合施設で調合された薬及び前記医療器材の搬送を指示しかつその指示結果を配送情報として薬局端末から前記ユーザ端末及び前記医療センタ端末に送出するステップとを備えている。

【0013】

本発明による他の在宅診療方法は、上記のステップのほかに、健康保険組合端末において前記医療センタ端末からの前記診察カルテと前記薬局端末からの前記配送情報とを前記通信ネットワークを介して受信するステップを具備している。

【0014】

まず、本発明の在宅診療システムは、病気の診察（診断）を依頼者（病人）がユーザ端末からネットワークを介して医師または病院に病気診察依頼を行い、診察依頼を受けた医師または病院がネットワーク上で依頼者（病人）の病状診察（診断）及び応急処置等の適切な指示を依頼者（病人）に伝え、薬の処方箋及び医療器材等の診察カルテを生成してユーザ端末及び薬局端末へネットワークを介して情報を送信する。

【0015】

また、本発明の在宅診療システムでは、薬局（薬剤師）が受信した処方箋を基に薬を調合し、薬剤調合の情報を医師または病院へインターネットを介して送信す

るとともに、調合した薬と医療器材とを依頼者（病人）へ配送する。

【0016】

依頼者（病人）は自宅に居ながらにして病気の診察（診断）を受け、また状況に応じて医師の診察（診断）による処方箋に基づいた薬と医療器材とによって病気回復と療養とに努めることが可能となる。

【0017】

より具体的に、本発明の在宅診療システムでは、病気診察（診断）の依頼者（病人）が自分の病状を、ユーザ端末を用いてネットワークを介し、医師及び病院である医療センタ端末に送信する。

【0018】

医療センタ端末では病気診察（診断）依頼を受取り、医師が双方向通話によって病状診察（診断）及び応急処置等の適切な指示を依頼者（病人）に行い、また、薬の処方箋及び医療器材等の診察カルテを生成し、それらの情報をネットワークを介してユーザ端末及び薬局端末へ送信する。

【0019】

薬局端末では受信情報を受取り、薬局（薬剤師）が処方箋を基に薬を調合し、薬及び医療器材等を依頼者（病人）へ配送する。また、薬の調合及び医療器材等の配送情報を薬局端末からネットワークを介して医療センタ端末及びユーザ端末へ送信する。

【0020】

これによって、依頼人（病人）は医師（病院）からの適正な応急処置と薬局（薬剤師）から配送された薬及び医療器材を基に病気回復と療養とに努めることが可能となる。

【0021】

【発明の実施の形態】

次に、本発明の実施例について図面を参照して説明する。図1は本発明の一実施例による在宅診療システムの構成を示すブロック図である。図1において、本発明の一実施例による在宅診療システムはユーザ端末1と、医療センタ端末2と、薬局端末3と、これらを相互に接続する通信ネットワークであるインターネット

100とから構成されている。

【0022】

ユーザ端末1はパーソナルコンピュータ等の情報処理装置である。ユーザ端末1は医療センタ端末2の医療機関（病院）及び開業医がインターネット100上に提供している在宅診療サービス情報にアクセスし、該在宅診療依頼情報を画面に表示する機能を備えている。在宅診療依頼情報としては、例えば診察を希望する依頼人の氏名、年齢、性別、生年月日、現住所等の個人情報及び医療保険加入（保険証No.）等と現在の症状（病状）の情報とを含む。

【0023】

ユーザ端末1は画像によるモニタ機能と双方向通信（言葉での会話をも含む）機能と在宅診療依頼情報をインターネット100を介して医療センタ端末2に送信する機能を備えている。つまり、ユーザ端末1からは医療センタ端末2に対して在宅診療依頼情報とともに、図示せぬマイクから入力される病人の音声情報や図示せぬカメラ [CCD (Charge Coupled Device) カメラ等] から入力される病人本人の画像情報も送信することが可能なように構成されている。

【0024】

医療センタ端末2は病人の診察を行う病院側の医師及び開業医によって使用され、ワークステーション・サーバ等の情報処理装置によって構成される。医療センタ端末2は病気治療依頼者（病人）の操作によってユーザ端末1が送出した在宅診療依頼情報を受取り、在宅診療依頼情報を基にユーザ端末1の病気治療依頼者（病人）との双方向通信によって医師が診察カルテを生成する。診察カルテとしては、例えば問診・状態観察記録と、以前の治療記録等と、応急処置の指示と、薬の処方箋及び医療器材の記録等とがある。

【0025】

医療センタ端末2は医師が生成した診察カルテ情報をインターネット100を介して薬局端末3及びユーザ端末1に送信する機能を備えている。

【0026】

薬局端末3は薬局の薬剤師によって使用され、ワークステーション・サーバ等

の情報処理装置によって構成される。薬局端末 3 は病院側の医師及び開業医の操作によって医療センタ端末 2 が送出した診察カルテ情報（できれば、薬局端末 3 への診察カルテ情報は問診・状態観察記録と以前の治療記録等とを除く）を受取り、診察カルテ内の処方箋情報を基に薬の調合を行い、また医療器材も揃える。薬局は診察カルテ情報を基に調合した薬と医療器材とを運送業者等を用いて病気治療依頼者（病人）に配送する。

【 0 0 2 7 】

薬局端末 3 は調合した薬と医療器材とを配送するとともに、医薬配送情報をインターネット 1 0 0 を介してユーザ端末 1 と医療センタ端末 2 とに送信する機能を備えている。医薬配送情報とは、例えば薬・医療器材等の数及び種類と、服用や使用方法及び注意等の情報とを含む。

【 0 0 2 8 】

依頼人（病人）は医療センタ端末 2 と薬局端末 3 とからインターネット 1 0 0 を介してユーザ端末 1 で受信した情報と薬局（薬剤師）から配送されてきた薬及び医療器材とを基に病気回復と療養とに努めることができる。

【 0 0 2 9 】

依頼人（病人）の医療費個人負担分等は後日、医療機関や薬局等の請求に基づいて銀行等の口座に振込み、または銀行等の個人口座からの引き落としを行うことで支払うことになる。

【 0 0 3 0 】

図 2 は本発明の一実施例による在宅診療システムに用いられる在宅診療依頼の表示画面を示す図である。図 2 において、在宅診療依頼の表示画面には依頼者（病人）の氏名、年齢、性別、生年月日、現住所、ネットアドレス、医療保険加入の有無及びその種類、保険証番号、本人病状等の記入欄が表示され、その記入欄への情報の入力が可能となっている。

【 0 0 3 1 】

図 3 は本発明の一実施例による在宅診療システムの動作を示すフローチャートである。これら図 1 ～図 3 を参照して、本発明の一実施例による在宅診療システムの動作について説明する。

【0032】

在宅診療依頼者（病人）は自分のユーザ端末1を介して、医療センタ端末2の医療機関（病院）及び開業医がインターネット100上に開設している在宅診療サービスホームページにアクセスする（図3ステップS1）。これに応答して、医療機関（病院）及び開業医の医療センタ端末2は在宅診療依頼情報をユーザ端末1に送信する（図3ステップS11）。

【0033】

ユーザ端末1には医療センタ端末2からの在宅診療依頼情報記入項目が画面に表示される（図2参照）（図3ステップS2）。在宅診療依頼者（病人）はユーザ端末1の画面に表示された記入内容を見て、各項目を随時記入して在宅診療依頼を行う（図3ステップS3）。

【0034】

図2に示す在宅診療依頼の表示画面では、在宅診療依頼者（病人）が画面上に依頼者（病人）と記入表示された右枠内をマウスでクリックし、カーソルを枠内に移動させて氏名をキーボードにて打ち込む。続いて、画面上に年齢と記入表示された右枠内をマウスでクリックし、カーソルを枠内に移動させて年齢をキーボードにて打ち込む。

【0035】

上記と同様に、性別、生年月日、現住所、ネットアドレス、保険証番号、本人病状というように、随時、マウスとキーボードとによって必要事項を打ち込んでいく。生年月日及び医療保険記入箇所、該当の表示項目（生年月日の例：○昭和）文字の左丸枠内をマウスでクリックすると、丸枠内に「・」マークが表示される（昭和生まれを意味する）。

【0036】

以上、図2に示す在宅診療依頼の表示画面で、一連の在宅診療依頼情報項目の入力終了後、記入内容確認を行い、画面下部中央の「確定」枠をマウスでクリックする。「確定」枠をマウスでクリックすると、最低限の記入項目（例：依頼者の氏名、現住所）が入力してあるかの有無と依頼者の入力内容に誤記がないかどうかのアラーム表示を行う。アラーム表示されたら、表示箇所の再入力を行い、

再度、「確定」枠をマウスでクリックする。アラーム表示がなければ、OK等の表示が行われる（図3ステップS4）。在宅診療依頼情報はユーザ端末1の記憶領域（図示せず）に蓄えられる。

【0037】

ユーザ端末1に蓄えられた在宅診療依頼情報は依頼者（病人）の指示（図2の表示中の下部右側の「依頼」枠内をマウスでクリック）によって、医療機関（病院）及び開業医の医療センタ端末2にインターネット100を介して送信される（図3ステップS5）。

【0038】

医療センタ端末2は在宅診療依頼情報を受信すると、ユーザ端末1と双方向通信可能に接続される（図3ステップS12，S5）。医療機関（病院側の医師）及び開業医は受信した在宅診療依頼情報とユーザ端末1の依頼者（病人）との双方向通信（言葉での会話も含む）とモニタ画像による症状（病状）の観察とを基に、診察カルテを生成する（図3ステップS13）。病院側の医師及び開業医は診察カルテを生成するとともに、依頼者（病人）に応急処置の指示を出す（図3ステップS14）。

【0039】

その後、薬の処方箋及び医療器材等の診察カルテ情報を医療センタ端末2からインターネット100を介して、ユーザ端末1及び薬局端末3に送信する（図3ステップS15）。

【0040】

ユーザ端末1及び薬局端末3は薬の処方箋及び医療器材の情報を受信する（図3ステップS6，S21）。薬局端末3が受信した情報を基に薬局（薬剤師）は薬を調合し、また医療器材を揃えて運送業者等を用いて依頼者（病人）に配送する（図3ステップS22）。薬局（薬剤師）は薬及び医療器材の配送とともに、薬及び医療器材の配送情報を薬局端末3からインターネット100を介して、ユーザ端末1及び医療センタ端末2に送信する（図3ステップS23）。

【0041】

依頼者（病人）は薬局（薬剤師）から配送されてきた薬及び医療器材を受取り

(図3ステップS7)、薬局端末3からの薬及び医療器材の配送情報を受信する(図3ステップS8)。

【0042】

医療センタ端末2は薬局端末3から送出された薬及び医療器材の配送情報を受信する(図3ステップS16)。医療センタ端末2を操作して薬の処方箋等の診察カルテを生成した医師は薬局端末3から送出された薬及び医療器材の配送情報と自らの診察カルテ内容との確認及び照合を行う(図3ステップS17)。

【0043】

依頼者(病人)は薬局から配送された薬及び医療器材と、医師及び薬剤師の指示情報とを基に病氣回復と療養とに努める。尚、薬局から依頼者(病人)への薬及び医療器材の配送情報は電子メール等によって相手側に通知するようにしてもよい。

【0044】

これによって、ユーザ(病人)が病氣の状態で医療センタ(病院)へ出向き、医師の診察(診断)を受ける必要がなくなり、自宅に居ながらにして医師の適切な診察(診断)を受けることができる。

【0045】

また、ユーザ(病人)が病氣によって体の抵抗力が低下している状態で、医療センタ(病院)へ出向くと、ともすると、医療センタ内(病院)で別の病氣等に感染するという危険からユーザ(病人)を守ることができる。

【0046】

図4は本発明の他の実施例による在宅診療システムの構成を示すブロック図である。図4において、本発明の他の実施例による在宅診療システムは健康保険組合端末4を追加してインターネット100に接続するようにした以外は図1に示す本発明の一実施例による在宅診療システムと同様の構成となっており、同一構成要素には同一符号を付してある。また、同一構成要素の動作は本発明の一実施例と同様である。

【0047】

病氣診察(診断)の依頼者(病人)は自分の病状を、ユーザ端末1を用いてイ

インタネット100を介し、医師及び病院である医療センタ端末2に送出する。医療センタ端末2では病気診察（診断）依頼を受取り、双方向通話によって医師が病状診察（診断）及び応急処置等の適切な指示を依頼者（病人）に行い、また薬の処方箋及び医療器材等の診察カルテを生成し、インタネット100を介してこれらの情報をユーザ端末1及び薬局端末3及び健康保険組合端末4へ送信する。

【0048】

薬局端末3が受信情報を受取ると、薬局（薬剤師）は処方箋を基に薬を調合し、薬及び医療器材等を依頼者（病人）へ配送する。また、薬の調合及び医療器材等の配送情報は薬局端末3からインタネット100を介して、医療センタ端末2、健康保険組合端末4、ユーザ端末1へ送信される。

【0049】

よって、医療センタ端末2からの診察カルテ情報及び薬局端末3からの薬及び医療器材等の配送情報が健康保険組合端末4に送出されるので、健康保険組合端末4ではこれらの情報を基にその診察及び治療にかかった費用を計算することも可能となる。

【0050】

この場合、医療センタ端末2は診察カルテ情報をインタネット100を介して、薬局端末3と健康保険組合端末4とユーザ端末1とに送信する機能を備えている。薬局端末3は調合した薬及び医療器材等の配送情報をインタネット100を介して、健康保険組合端末4と医療センタ端末2とユーザ端末1とに送信する機能を有している。

【0051】

健康保険組合端末4はワークステーション・サーバ等の情報処理装置によって構成され、医療センタ端末2から送出されかつ在宅診療依頼を基に医師が生成した診察カルテ情報と、薬局端末3から送出されかつ調合した薬及び医療器材等の配送情報とを受信する機能を有している。

【0052】

図5は本発明の他の実施例による在宅診療システムの動作を示すフローチャートである。これら図4及び図5を参照して、本発明の他の実施例による在宅診療

システムの動作について説明する。

【0053】

在宅診療依頼者（病人）は自分のユーザ端末1を介して、医療センタ端末2の医療機関（病院）及び開業医がインターネット100上に開設している在宅診療サービスホームページにアクセスする（図5ステップS1）。これに応答して、医療機関（病院）及び開業医の医療センタ端末2は在宅診療依頼情報をユーザ端末1に送信する（図5ステップS11）。

【0054】

ユーザ端末1には医療センタ端末2からの在宅診療依頼情報記入項目が画面に表示される（図2参照）（図5ステップS2）。在宅診療依頼者（病人）はユーザ端末1の画面に表示された記入内容を見て、各項目を随時記入して在宅診療依頼を行う（図5ステップS3）。

【0055】

図2に示す在宅診療依頼の表示画面で、一連の在宅診療依頼情報項目の入力終了後、記入内容確認を行い、画面下部中央の「確定」枠をマウスでクリックする。「確定」枠をマウスでクリックすると、最低限の記入項目（例：依頼者の氏名、現住所）が入力してあるかの有無と依頼者の入力内容に誤記がないかどうかのアラーム表示を行う。アラーム表示されたら、表示箇所の再入力を行い、再度、「確定」枠をマウスでクリックする。アラーム表示がなければ、OK等の表示が行われる（図5ステップS4）。在宅診療依頼情報はユーザ端末1の記憶領域（図示せず）に蓄えられる。

【0056】

ユーザ端末1に蓄えられた在宅診療依頼情報は依頼者（病人）の指示（図2の表示中の下部右側の「依頼」枠内をマウスでクリック）によって、医療機関（病院）及び開業医の医療センタ端末2にインターネット100を介して送信される（図5ステップS5）。

【0057】

医療センタ端末2は在宅診療依頼情報を受信すると、ユーザ端末1と双方向通信可能に接続される（図5ステップS12，S5）。医療機関（病院側の医師）

及び開業医は受信した在宅診療依頼情報とユーザ端末1の依頼者（病人）との双方向通信（言葉での会話も含む）とモニタ画像による症状（病状）の観察とを基に、診察カルテを生成する（図5ステップS13）。病院側の医師及び開業医は診察カルテを生成すると共に依頼者（病人）に応急処置の指示を出す（図5ステップS14）。

【0058】

その後、薬の処方箋及び医療器材等の診察カルテ情報は医療センタ端末2からインターネット100を介して、ユーザ端末1と薬局端末3と健康保険組合端末4とに送信される（図5ステップS15）。

【0059】

ユーザ端末1は薬の処方箋及び医療器材等の診察カルテ情報を受信する（図5ステップS6）。薬局端末3も、薬の処方箋及び医療器材等の診察カルテ情報を受信する（図5ステップS21）。同様に、健康保険組合端末4も、薬の処方箋及び医療器材等の診察カルテ情報を受信する（図5ステップS31）。

【0060】

薬局端末3が受信した情報を基に、薬局（薬剤師）は薬を調合し、また医療器材を揃えて運送業者等を用いて依頼者（病人）に配送する（図5ステップS22）。薬局（薬剤師）は薬及び医療器材の配送とともに、薬及び医療器材の配送情報を薬局端末3からインターネット100を介して、ユーザ端末1と医療センタ端末2と健康保険組合端末4とに送信する（図5ステップS23）。

【0061】

依頼者（病人）は薬局から配送されてきた薬及び医療器材等を受取る（図5ステップS7）。また、依頼者（病人）はユーザ端末1によって薬局端末3からの薬及び医療器材等の配送情報を受信する（図5ステップS8）。

【0062】

医療センタ端末2は薬局端末3から送出されてきた薬及び医療器材の配送情報を受信する（図5ステップS16）。医療センタ端末2を操作して薬の処方箋等の診察カルテを生成した医師は、薬局端末3から送出されてきた薬及び医療器材の配送情報と自らの診察カルテ内容との確認・照合を行う（図5ステップS17）。

）。

【0063】

健康保険組合端末4は薬局端末3から送出されてきた薬及び医療器材の配送情報を受信する（図5ステップS32）。よって、健康保険組合端末4ではこれらの情報を基にその診察及び治療にかかった費用を計算することも可能となる。

【0064】

依頼者（病人）は薬局から配送されてきた薬及び医療器材と医師及び薬剤師の指示情報とを基に病気回復と療養とに努めることができる。尚、薬局から依頼者（病人）への薬及び医療器材の配送情報は電子メール等によって相手側に通知するようにしてもよい。

【0065】

これによって、健康保険組合端末4は医療センタ端末2からの薬の処方箋及び医療器材等の診察カルテ情報と、薬局端末3からの薬及び医療器材の配送情報とを基にその診察及び治療にかかった費用を計算することが可能となるので、医療センタ（病院）及び薬局での健康保険組合等への費用請求手続きの煩わしさを軽減することができる。また、健康保険組合等は診察内容等を明確に把握することができるので、適正な医療報酬の支払いが可能となり、上記の情報によって健康保険組合員の健康状態を把握することができる。

【0066】

【発明の効果】

以上説明したように本発明の在宅診療システムによれば、病気診察依頼を行うためのユーザ端末と、病気診察依頼に応答してユーザ端末を通して行われた病状診察及びそれに基づいた応急処置の指示と病状診察に基づいた薬の処方箋及び医療器材の使用指示とを含んで生成された診察カルテをユーザ端末及び薬の調合施設に送信する医療センタ端末と、診察カルテに基づいて調合施設で調合された薬及び医療器材の搬送を指示しかつその指示結果を配送情報としてユーザ端末及び医療センタ端末に送出する薬局端末とを備えることによって、自宅に居ながらにして医師の適切な診察（診断）を受けることができ、医療センタ内（病院）で別の病気等に感染する危険から守ることができるという効果がある。

【0067】

また、本発明の他の在宅診療システムによれば、上記の端末のほかに、医療センタ端末からの診察カルテと薬局端末からの配送情報とを通信ネットワークを介して受信する健康保険組合端末を備えることによって、医療センタ（病院）及び薬局が健康保険組合等に対する費用請求手続きの煩雑さを軽減することができ、健康保険組合等が診察内容等が明確に把握することができ、適正な医療報酬の支払いが行うことができるとともに、健康保険組合員の健康状態を把握することができるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の一実施例による在宅診療システムの構成を示すブロック図である。

【図2】

本発明の一実施例による在宅診療システムに用いられる在宅診療依頼の表示画面を示す図である。

【図3】

本発明の一実施例による在宅診療システムの動作を示すフローチャートである。

【図4】

本発明の他の実施例による在宅診療システムの構成を示すブロック図である。

【図5】

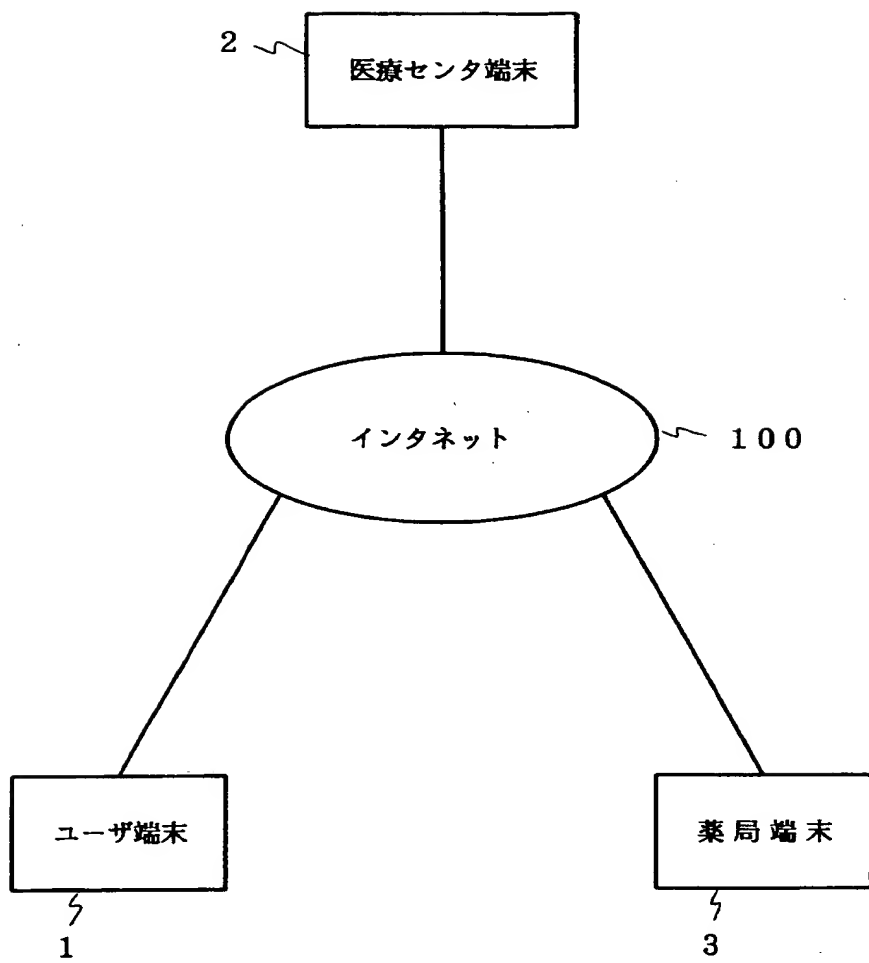
本発明の他の実施例による在宅診療システムの動作を示すフローチャートである。

【符号の説明】

- 1 ユーザ端末
- 2 医療センタ端末
- 3 薬局端末
- 4 健康保険組合端末

【書類名】 図面

【図 1】



【図2】

在宅診療依頼

依頼者（病人）：

年齢：

性別：

生年月日：○明治 ○大正 ○昭和 ○平成

年

月

日

現住所：

ネットアドレス：

医療保険：

○加入

○未加入

医療保険の種類：

○社会保険

○国民健康保険

保険証番号：

○被保険者

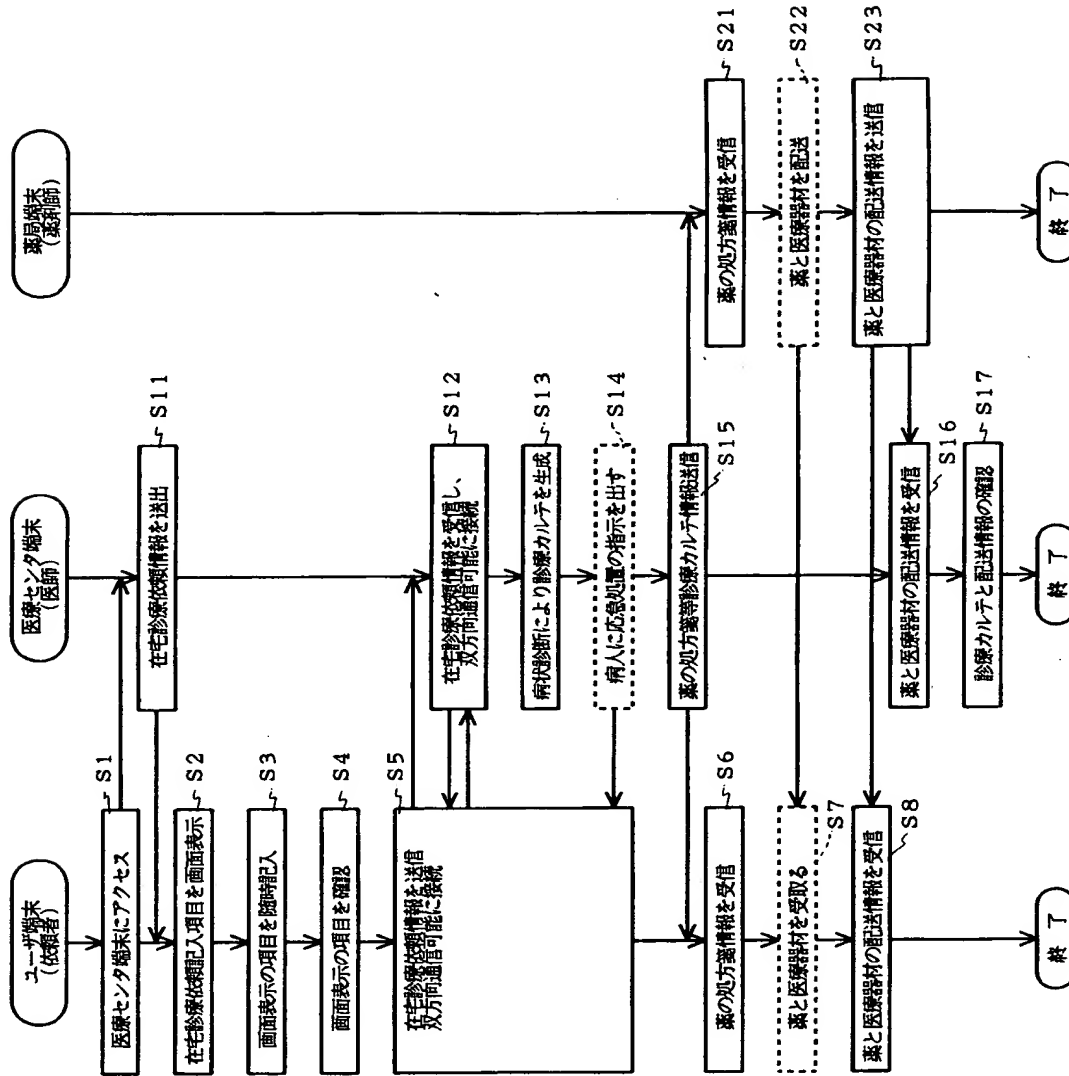
○被扶養者

本人病状：

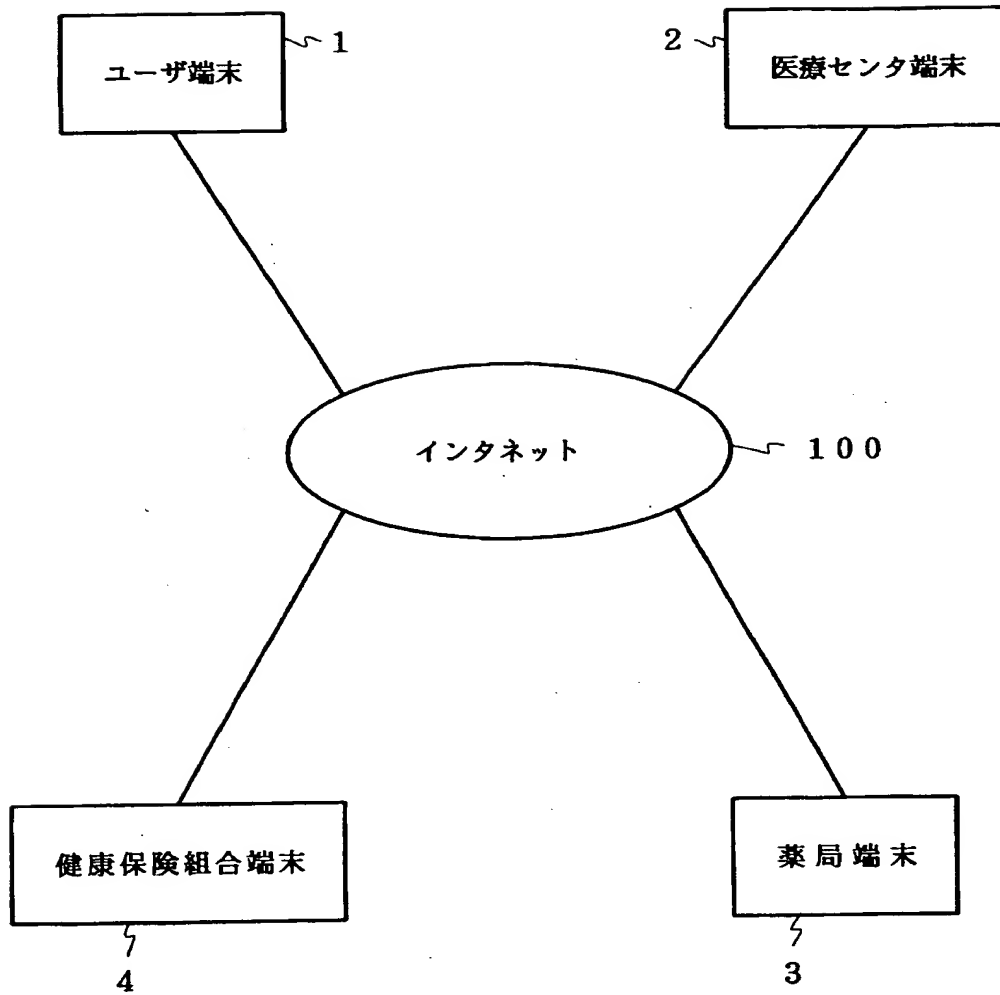
確定

依頼

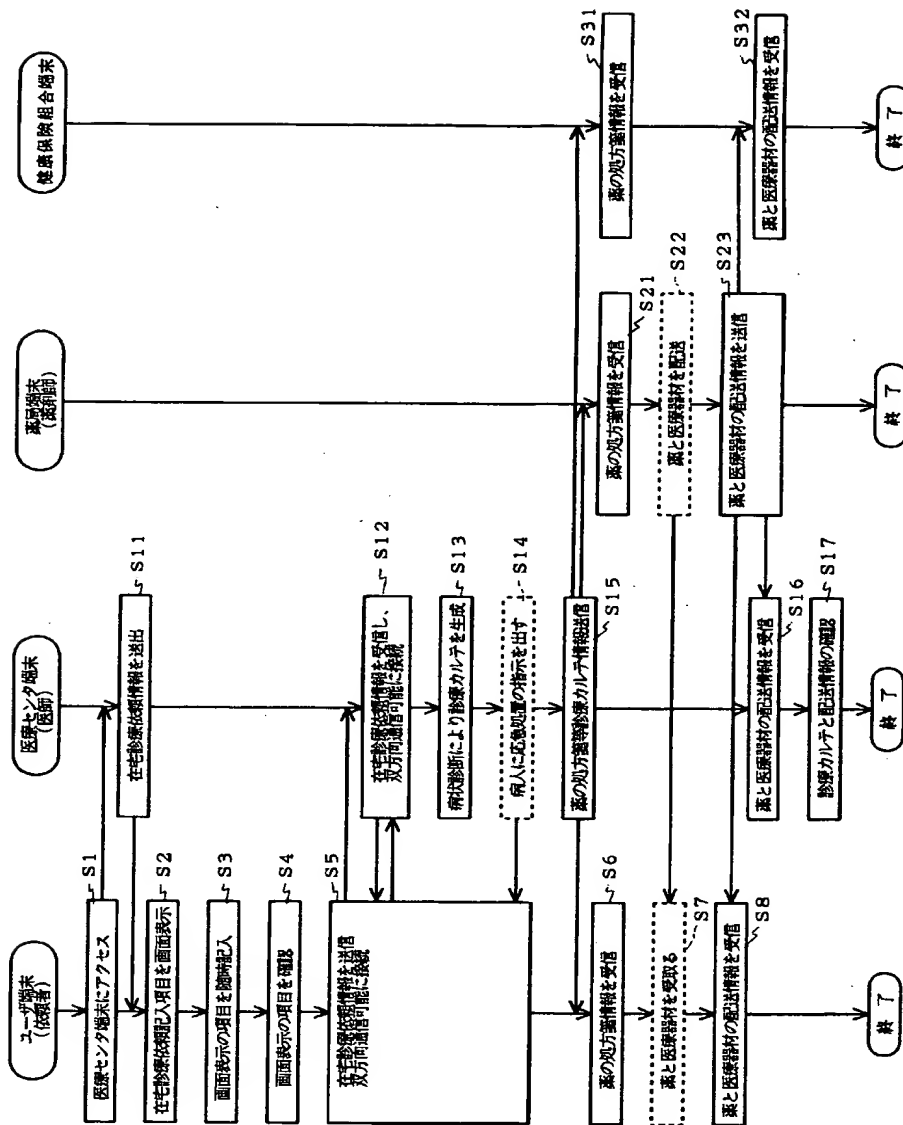
【図 3】



【図4】



【図 5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 自宅に居ながらにして医師の適切な診察を受け、医療センタ内で別の病気等に感染する危険から守ることが可能な在宅診療システムを提供する。

【解決手段】 医療センタ端末2はユーザ端末1からの在宅診療依頼情報を受取り、在宅診療依頼情報を基にユーザ端末1との双方向通信によって医師が診察カルテを生成する。医療センタ端末2は診察カルテ情報をインターネット100を介して薬局端末3及びユーザ端末1に送信する。薬局端末3は医療センタ端末2からの診察カルテ情報内の処方箋情報を基に薬の調合を行い、医療器材を揃えて病人に配送する。薬局端末3は医薬配送情報をインターネット100を介してユーザ端末1と医療センタ端末2とに送信する。

【選択図】 図1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000004237]

1. 変更年月日 1990年 8月29日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都港区芝五丁目7番1号
氏 名 日本電気株式会社



Creation date: 04-30-2004
Indexing Officer: GTELILA - GETAHUN TELILA
Team: OIPEScanning
Dossier: 09895392

Legal Date: 12-16-2002

No.	Doccode	Number of pages
1	IDS	4
2	FOR	18
3	FOR	5
4	FOR	21

Total number of pages: 48

Remarks:

Order of re-scan issued on